

意次侯の誕生
—七面大明神への祈願—

今からちょうど300年前の享保4（1719）年、意次侯は、田沼意行（もとゆき／おきゆき）の嫡男として、江戸で生まれました。

母は田代高近の養女で、名前は「たつ」といったようですが（諸説あり）。父の意行が、享保元（1716）年に8代将軍徳川吉宗によって旗本に選出世してから3年後に生まれた、待望の跡継ぎでした。

意次侯の誕生については、ある伝説が伝わっています。それは「たつ」といったようですが（諸説あり）。父の意行が、享保元（1716）年に8代将軍徳川吉宗によって旗本に選出世してから3年後に生まれた、待望の跡継ぎでした。

意次侯の誕生については、ある伝説が伝わっています。江戸時代の伝記小説である『相良海老』（市史料館所蔵本）には、「専左衛門夫婦七面へ祈願の事井田沼主殿頭出生の事」として、次のような逸話が載っています。なお、専左衛門は意行、主殿頭は意次侯卒して衆人にひいづる程のことをさしき給へと丹精をぬきて祈りけるが、信心神も納受ありけるにや、女房たつ程なく懷妊しければ、専左衛門夫婦斜めならず悦びて弥々信



七面大明神像(浄心寺所蔵)

誕生は、ドラマチックなものとして語られてきたことがわかります。なあ、七面大明神とは、別名を「七面天女」ともいい、主に日蓮宗の寺院で祭られています。日蓮宗や法華經を守護する神として信仰されていふことから、田沼家は日蓮宗と深い関係についたと考えられています。

田沼家のお宝(資料)、ありませんか?

市史料館では、今年の10月中旬から12月上旬にかけて、田沼意次侯生誕300年を記念し、田沼意次侯をテーマにした特別展の開催企画中です。そこで、その際の展示品とするため、田沼家に関する書画や古文書、工芸品、刀剣などのお宝(資料)を探しています。

江戸幕府の老中・側用人を

つとめ、牧之原町を中心に最

大で5万7千石の領地を持つ

大名でもあつた田沼意次侯。

その歴史の一端が、皆さまの身近に人知れず眠っているかもしれません。お宝(資料)を持っている人、自宅に古い蔵や倉庫がある人、良くわからないけど古い物が残っているという人は、担当者まで問い合わせてください。

問い合わせ 社会教育課 谷川 ☎ (53) 2646 長



[お宝の例] 寺田洞仙筆「大黒天図」(市史料館所蔵)

議会

2月25日から3月22日までの会期

問い合わせ 総務課 源間 ☎ (23) 0050

一般会計補正予算(第5号)

30年度第5回目の補正で、3億5862万2千円を増額し、補正後の総額を218億2741万2千円としました。

今回の補正予算では、放射線防護対策事業の追加のほか、各事業の執見込みから生じる不用額や市税の決算見込みおよび繰越金などの未計上額を、財政調整基金や減債基金へ積み立てる(=繰り戻す)などの予算措置を行いました。

元年度の一般会計の歳入歳出予算是203億3千万円で、合併以降最大規模であった30年度当初予算と比較すると1億5千万円の減額とはなりましたが、合併以降2番目の大型予算となりました。

若者が住みよい、住みたいと思うための子育て支援や移住・定住の促進のための施策、サーフィンを核としたホステルや沿岸部の活性化の取り組み、田沼意次侯生誕300年記念の各種事業やまきのはら産業・地域活性化センターの設立によ

る内容をお知らせします

問い合わせ 総務課 源間 ☎ (23) 0050

募集

牧之原市の未来をつくる仕事
令和2年度4月採用の市職員を募集

問い合わせ 総務課 萩原 ☎ (23) 0051

職種・採用人数

▼一般事務
〔短大卒以上、身体障がい者
枠含む〕 ≈8人程度

〔高校卒〕 ≈若干名

▼保健師 ≈1人

▼一般事務
〔短大卒以上、身体障がい者
枠含む〕、保健師

5月20日㈪～6月10日㈰

〔高校卒〕

7月16日㈫～8月5日㈪

*郵便の場合、期間最終日の消印を有効とします。

▼一般事務
〔短大卒以上、身体障がい者
枠含む〕、保健師

5月20日㈪～6月10日㈰

〔高校卒〕

7月16日㈫～8月5日㈪